

離床センサーシステム

# EPS

Eye&Person&System

## ご導入施設

## インタビュー Vol.1



所在地 〒830-8543  
福岡県久留米市津福本町422番地  
TEL 0942-35-3322(代表)  
FAX 0942-34-3115

# 社会医療法人 雪の聖母会聖マリア病院 様へ インタビューしました

### ご施設紹介

社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院様は、昭和28年に設立され地域と共に発展されてこられました。また地域医療支援病院、地域災害拠点病院、救命救急センター、総合周産期母子医療センター、地域がん診療連携拠点病院として地域医療に貢献されております。基本理念は『カトリックの愛の精神による保健、医療、福祉及び教育の実践』であり、愛の精神とは主イエズス・キリストの限りない愛のもとに、常に弱い人々のもとに行き、常に弱い人々と共に歩む事と解釈し、患者中心の医療を実践しております。

医療安全管理部門では患者様が常に安心して医療を受けられるよう、できごと報告された有害事象及び警鐘事象は、医療安全管理委員会、部署安全管理者カンファレンス及び医療の質検討会を行い、それに含まれている問題点を洗い出し、対策を取ることで再発防止、未然防止に努められて



います。この度株式会社イムズ製の離床センサーEPSシステムを脳神経外科及び脳血管内科病棟へ導入するにあたって、ご検討された内容を医療の質管理本部本部長本田順一副院長、副本部長下川さえ子看護師長へインタビュー致しました。

the Voice  
ドクターの声



本田順一副院長

医療安全管理者が「転倒・転落」対策に頭を痛めていらっしゃる事が手に取るように分かります。私自身も色々対策を実施してきましたが、転倒・転落を減らすことが出来ませんでした。通常の離床センサーでは転倒を早期に発見することは可能ですが、予防するには非常にスピーディな対応が必要になってきます。そんな事は現実的に不可能です。しかし転倒・転落を予防するには24時間見守るしかありません。

離床センサーEPSシステムはそれを可能にするシステムであると直感し、当院に導入致しました。このシステムは患者さんの動きを感知し、手元のスマートフォンに現在の状況を動画で送ります。その画像を見て危険だと判断すれば患者さんのもとへ直行し、危険でないのであればそのまま見守ることが出来ます。その場に居なくても見守ることが出来るのです。

また、このシステムは録画機能もありますので、患者さんがどのように動き、危険な状況になっているのかを後で振り返ることが可能です。

離床センサーEPSシステムは患者さんを見守ることが出来る合理的なシステムであり、スタッフ教育にも寄与できるシステムであると思います。



下川さえ子看護師長

高齢化社会の到来と共に転倒・転落防止対策は、多くの施設にとって深刻な問題に外なりません。また、転倒・転落は患者側の要因も大きく、他のインシデント・アクシデントとは異なり、医療者だけの努力では限界さえ感じられます。当院においても転倒・転落防止においては大きな課題のひとつになっています。転倒・転落事例発生の度に、「発生の要因」「発生状況」などの分析を行い、医療システムに視点を置いた改善策を立て、医療の質向上に日々努めていますが、離床監視の問題は、定期的な見守りや各種センサーによる監視を組み合わせる等の試行錯誤の状態でした。

そこで今回、株式会社イムズ製のEPS離床センサーシステムを導入することで、転倒・転落防止への取り組みにおいて大きく一歩踏み出せたように思います。

EPS離床センサーシステムでは、離床の状況をアラームと共に動画を手元のスマホで確認できるため、離床状況をいち早く察知でき、患者様の安全が図られると共に、日々の業務効率向上にも繋がりました。更に、動画は一定期間保存されていますので、転倒症例について事後の検証を行ったり、KYT等スタッフ教育の教材としても有効に活用する事ができ、スタッフの意識向上にも繋がっています。

## ● 病棟での設置状況

使用機種：離床センサーEPSカメラシステム

使用病棟：脳外科、脳神経内科

今後の展開：循環器科、外科、整形外科等増設予定



本システムは病院システムの中に仮想サーバを設けていただき、離床センサーとの連携を行っています。

今後、他病棟にも本システムを導入すべく準備を進めております。



製品のお問合せ先